令和８年度
全国学力・学習状況調査の分析結果と今後の取組について

小城市立牛津小学校

今年の４月、６年生対象に文部科学省による学力・学習状況調査を実施しました。義務教育の機会均等と教育水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、児童生徒一人一人の学習改善や学習意欲の向上につなげることを目的としているものです。

結果を基に、本校児童の学力の傾向を分析し、その向上について対応策をまとめました。今後の授業や教育活動の改善に生かしていきたいと思います。ただ、本調査は、小学校第６学年と中学校第３学年と限られた学年が対象であり、教科は国語科、算数科・数学科の二教科です。したがって、この調査によって測定できるのは、児童の「学力の特定の一部分」であり「学校教育活動の一側面」を表したものに過ぎません。以下に分析結果の概要についてお知らせいたしますが、そのことをご了解の上、ご覧ください。

本校では、国語科、算数科以外の教科も含め、総合的に児童の学力向上を目指し、教育指導の充実や学習状況の改善に努めていきます。

■調査期日

令和８年４月２３日（木）

■調査の対象学年

小学校６年生児童

■調査の内容

（１）教科に関する調査

・身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり、常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等に関わる内容。
・知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て、実践し、評価・改善する力等に関わる内容。

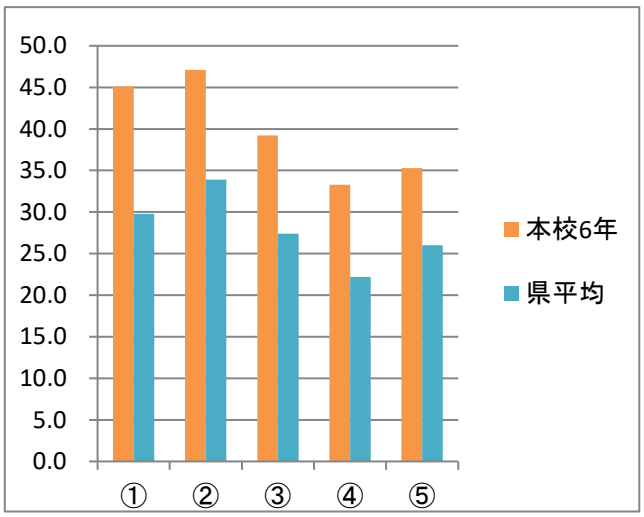
（２）生活習慣や学習環境に関する質問紙調査

・朝食の様子、自分ついての振り返り、読書時間、タブレットの活用度など生活の諸側面等に関する調査
・国語科、算数科への興味・関心、授業内容の理解度やテストの日程等に関する調査

◆生活習慣や学習習慣に関する調査「質問紙(意識)調査」から

【数値が特に高かった項目】（県との比較で特に上回った項目の順番で示しています）

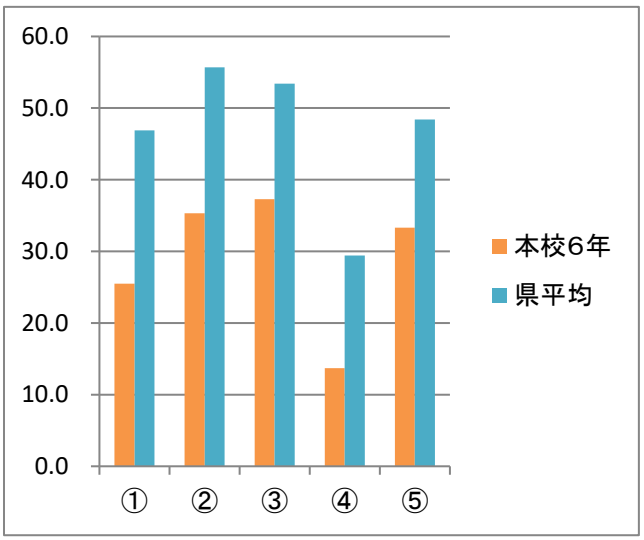
	調　査　の　項　目
①	あなたの学級では、人と違う意見を言っても否定されないと思いますか。
②	5年生までに受けた授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていましたか。
③	将来の夢や目標を持っていますか。
④	人の役に立つ人間になりたいと思いますか。
⑤	あなたは自分がPC・タブレットなどのICT機器で文章を作成することができますか。



【分析と取り組み】
○人と違う意見を言っても否定されない支持的風土が育っている。普段から授業中などに話し合い活動に取り組んだことや授業が合っていると感じている。児童が県平均よりいたので今後も継続していきたい。
○将来の夢や目標をもち、人の役に立つ人間になりたい思いをもつ児童が県平均を大きく上回っている。支持的風土がなっているので自分の夢や目標をもち、人の役に立ちたいと思うことができている。

【数値が特に低かった項目】（県との比較で特に下回った項目の順番で示しています）

	調　査　の　項　目
①	分からないことやくわしく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか。
②	総合的な学習の時間では、PC・タブレットなどのICT機器を使って、うまく情報を集めたり、整理したり、発表したりできていますか。
③	総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか。
④	5年生までに受けた授業では、国語の授業で、文章などを引用して、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫して文章を書いていますか。
⑤	国語の勉強は得意ですか。



【分析と取り組み】
○全体的な傾向として、文章を書くことや分からないことを調べたり、工夫したりすることができていないと回答した児童の割合が多かった。実際の授業においても、国語や総合的な学習においての情報収集やまとめることを苦手とし、表現したり、発表したりすることに課題が見られる。今後はICTなどを活用し、自分に合った課題を立てさせ、必要な情報を収集し、まとめる力を高める授業を行っていく必要がある。

◆令和８年度全国学力・学習状況調査　《　６年生　国　語　》

全体の概要

・国語科の平均正答率は、全国・県平均共に大きく下回っている。

・評価の観点で見ると、「知識・技能」は県平均を大きく下回っている。「思考・判断・表現」は、県平均からはやや下回っている。

・自分の経験を交えて文章表現することの苦手な児童が多いため、記述式の無回答率が高かった。また、条件に合わせて記述する問題への無回答率も高かった。

観点	分析結果・自校の課題	改善に向けた具体的取り組み
知識・技能	・普段の学習や日常の書く活動において平仮名で書くことが多く、漢字で表現する習慣が十分に身に付いていない児童が少なくない。 ・詩や文章の種類とその特徴について理解することに難しさを感じ、長文の読み取りにつまずく傾向が高い。また、目的に応じて、必要な情報を取り出す力についてもさらに伸ばしていく必要がある。	・普段の授業で記述をする際に、習った漢字を意識して活用するよう声掛けをしていく。 ・朝読書の時間に、全体で 1200 字程度の文章を読み、要約したり、感想を伝えたりする活動等、文章に親しむ機会を設けることで、苦手意識をなくしていけるようにしたい。 ・つながりタイムでブックトークを取り入れ、児童が自ら本を読む機会を仕組んでいく。 ・授業で扱う問題や課題に対して、問題文を音読したり、キーワードに線を引いたり、自分の言葉で読み返したり、要約したりする活動を取り入れ、問題文を丁寧に読み解く習慣が身に付くようにしいていく。
思考・判断・表現	・普段から授業で ICT 利活用を推進しているため、資料を活用する力が身に付いている。 ・記述することに対しての苦手意識が高く、自分の経験と結び付けて記述することや、条件に合わせて記述する力を全体的に伸ばす必要がある。	・ICT 利活用に関しては継続して推進していく。 ・普段の授業から、記述をする際に、ただ自由に記述させるのではなく、条件を提示し、記述していく必要がある。 ・つながりタイムで、回答を選択し、自分に関する情報を交えながら、相手に理由などを伝えていくことで、自分の経験を結び付けて回答することに慣れていき、それを記述していくようにする。

【ご家庭では】

〇子どもさんと日常の会話をたくさん行ってください。おうちの方との会話は、とても楽しいものです。その中で自然と思考したり、言葉の使い方を学んだりすることができます。また、話を聞いてもらうことは子どもたちにとって、心の安定にもつながります。

〇日々の課題に取り組む時間の確保や習慣づけをしてください。毎日の音読をおうちの方が楽しみにしてくださると、子どもたちも進んで読むようになります。教材の内容が分かってくることで読解力もついてきます。また、漢字の宿題に、時々目を通してあげて、丁寧に書いていたらたくさんほめてあげてください。親子で触れ合いながら、学んでほしいと思います。

◆令和８年度全国学力・学習状況調査　《　６年生　算　数　》

全体の概要

・算数科の平均正答率は、全国平均を大きく下回っており、県平均からはやや下回っている。

・評価の観点で見ると、「思考・判断・表現」は県平均とほぼ同じで、「知識・技能」は県平均からやや下回っている。

・領域別に見ると、「数と計算」「測定」「データの活用」では県平均とほぼ同じであるが、「図形」は県平均を大きく下回っている。

・文章題の意味を理解していない、題意を読み取れていない問題が多い。

観点	分析結果・自校の課題	改善に向けた具体的取り組み
知識・技能	・整数と小数のひき算の問題（5－3.76）は県平均を大きく上回っており、基礎的な計算は身に付いている。 ・体積の求め方、図形の構成（直方体を構成している面の形を捉えること）が十分に定着していない。 ・二次元の表から条件に合う数を読み取る問題に課題がある。	・日々の授業において、問題文の意味や式の意味を問い返すような発問を繰り返す。問題文を捉える時、何を聞かれているのか、図や言葉で整理させる。 ・図形領域では、公式だけではなく、様々な要素を関連付けるような手立てを取る。例えば、図形の性質、公式、構成要素を説明させたり書いて捉えさせたりする経験を増やす。 ・問題用紙に書き込みが見られない児童が多くいるため、分かっていることや大事なことを書き込ませ、理解を促進させる。
思考・判断・表現	・異分母の分数の大小を判断し、その理由を数や言葉で説明することはできている。 ・混み具合を求める問題において、わり算の式が表す意味を十分に理解できていない。 ・グラフや表、図形など、繰り返し学習する場面が少ない領域では、基本的な学習内容の定着が十分でない。	・問題解決学習において、児童同士が主体的に考えを交流する「つぼみタイム」を各教科の実態に応じて取り組み、児童の思考力・表現力の向上につなげていく。 ・式の意味や、答えの意味を繰り返し検討したり、説明したりする活動を授業に取り入れる。その際、数値だけの形式的な吟味に終わらないように、具体例を上げながら、児童の理解を促進させる。

【ご家庭では】

〇時々は、算数のノートに目を通してください。今、学習している内容や子どもさんの理解度を把握していただき、テストやプリントでの間違いを一緒に考えたり、正したりすることで理解につながってくると思います。また、九九の定着が不十分な子どもたちがいます。時には、一緒に九九を唱えてみてください。

〇身の回りには、算数科で学んだことを生かす場面がたくさんあります。買い物でお金の計算をしたり、料理で調味料を量ったり、生活の中での必要性や便利さを生かす場を積極的につくっていただきたいと思います。